

## 平成30年度 自己評価結果

川辺町第1こども園

評価項目	評価内訳(割合)	
	できている	できていない
1、総則	89.1%	10.9%
(1)教育及び保育の基本と目標	90.5%	9.5%
(2)特に配慮すべき事項	88.7%	11.3%
2、子どもの発達	92.3%	7.7%
3、「ねらい」及び「内容」	90.2%	9.8%
(1)健康	88.5%	11.5%
(2)人間関係	92.0%	8.0%
(3)環境	79.0%	21.0%
(4)言葉	87.4%	12.6%
(5)表現	85.0%	15.0%
4、低年齢児の保育実施上も配慮事項	94.4%	5.6%
(1)乳児期の保育に関する配慮事項	94.2%	5.8%
(2)満1歳以上～満3歳未満児の保育に関する配慮事項	95.5%	4.5%
5、指導計画作成にあたっての配慮すべき事項	90.8%	9.2%
6、研修と自己評価	88.7%	11.3%
7、子育て支援	85.1%	14.9%
合計	90.2%	9.8%

達成状況	できていること	できていないこと
1、総則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人一人の行動の理解や発達の過程に応じた援助を行うよう努めている。</li> <li>・子どもの思いを十分に受容し安心して生活できるよう努めている。</li> <li>・子どもの健康には十分に配慮し、基本的な生活習慣が身に付くよう援助を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども自らが主体となり活動ができるような環境を構成していかなければならない。</li> <li>・特別支援教育、障がい児保育について療育施設、家庭との連携がまだ不十分である。</li> <li>・法令や教育保育要領など専門知識に対する理解の徹底。</li> </ul>
2、子どもの発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが経験したことを基に身体的、情緒的、社会性の発達など周囲の環境から刺激を受けて成長できるよう、一人一人の生理的、身体的な諸条件や成長の違いを把握しようと努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの特性や資質の個人差があることを踏まえ関わり、人に対する信頼感や自己肯定感の獲得、基本的な生活習慣を身につけるなど、乳幼児期につけるべき力を意識して発達を促していく必要がある。</li> </ul>

3、「ねらい」及び「内容」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団あそびを積極的に取り入れ子ども達が伸び伸びと体を動かして遊ぶことが出来るような人的、物的環境を構成した。</li> <li>・縦割りグループを作り、異年齢での関わりを多く持てるようにした。</li> <li>・子どもが遊びや生活の中で発した言葉や、思いを受け止め共感することで子どもの喜びに繋げていくことが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動や行事への参加があまり積極的に行えなかった。</li> <li>・クラスで自然物に触れたり、世話をしたりできる環境構成が足りなかった。</li> </ul>
4、低年齢児の保育実施の配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人とのふれあいを大切に、家庭的な雰囲気の中で、子どもが安心して過ごせるよう努めた。</li> <li>・SIDSには十分に留意し、午睡時には睡眠の様子を定期的を確認しチェックを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内環境の配慮が少し不十分であった。室内でも子どもが伸び伸びと体を動かし、心身ともに満たされるような工夫が必要であった。</li> </ul>
5、指導計画作成にあつたての配慮すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の保育、教育課程を基に指導計画の立案、作成をしている。作成する上で職員間で互いの考えや意見を伝え合いながら行っている。</li> <li>・子どもの姿を十分に捉えた反省や次への課題を見出している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の作成のうえで子どもの個々の姿の見立ての違いが生じてしまう場面が見られた。</li> </ul>
6、研修と自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアアップ研修、障がい児研修等、園内外の研修に参加し、保育に関する知識を習得し、技術の向上に努めた。</li> <li>・自己評価で課題を見つけ、保育を振り返る機会を定期的に持つことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアアップなど各研修で学んできた事を職員間で伝え合い、意識を高めていける機会が不足していた。</li> <li>・園の保育理念や基本方針への理解を深めていく。</li> </ul>
7、子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の子どもの様子や変化、成長を保護者に丁寧に伝え、時には子どもとの関わり方を助言するなどして共通理解が深められるよう努めた。</li> <li>・年2回の個人面談を設け子育てについての悩みや、不安を話し合うことが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域のニーズに対して柔軟な対応が出来ていない。家庭環境にも十分に目を向けて子育て支援をしていく必要がある。</li> </ul>

＜来年度取り組むべき課題及び提案＞

- ・総則が低いパーセンテージとなってしまった。子どもの心と体の成長を預かっているのだと改めて自覚し関わっていく。
- ・非認知能力を育てることが重要視されている。遊びの中で主体性や意欲、人との関わり方など様々な力が伸びていけるような保育を展開していく。
- ・室内外において遊びのコーナーを設定するなど工夫をし、充実した環境設定をしていく。
- ・子どもの発達や成長速度などを保護者により分かりやすく伝え、園と家庭、両方の姿から子どもの成長を理解していく。
- ・子どもとの関わり方だけでなく、法令や教育要領に対する専門知識の理解を深めていく。
- ・職員同士の打ち合わせ、連携を密に行い共通理解を深めたり、職務の効率化を図ったりしていく。